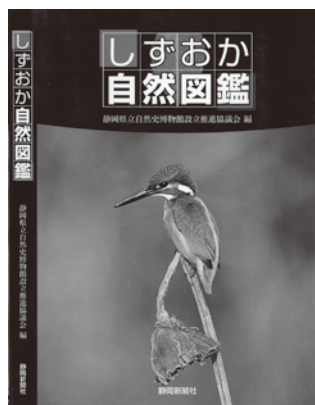


NPOの出版物

三宅 隆

しずおか自然図鑑

まだ、NPO になる前の団体「自然史博物館設立推進協議会（自然博推進協）」時代に、静岡県立の自然史博物館をつくってもらう活動を行うとともに、県民に静岡県の自然についての理解をより深めてもらいたいと、推進協に加盟している、各分野の専門家をお願いして執筆してもらい「しずおか自然図鑑」を静岡新聞社から2001年4月7日に出版しました。



本の仕様は、四六判（186×128mm）・192ページ・全カラーで、定価1,800円、カラー写真が全部で約600枚も入っており、カラフルで、楽しみながら読める本です。

それまで、静岡県自然に関しては、植物や野鳥などそれぞれを紹介した本はありましたが、静岡県の自然を全般にわたってわかりやすく紹介した本はありませんでした。

内容は静岡県の地形と地質、植物、昆虫、淡水のいきもの、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類、生活と自然などで、野外で図鑑としても使用できるようハンディなサイズとしました。

しずおか自然史

静岡新聞日曜版に2007年9月から2010年3月まで掲載されていたコラムを収録・再編集した本で、2010年10月発刊、A5版・278ページ、定価2,500円、2年半に渡って、静岡県の自然史に関わるコラムを、県内外の専門家

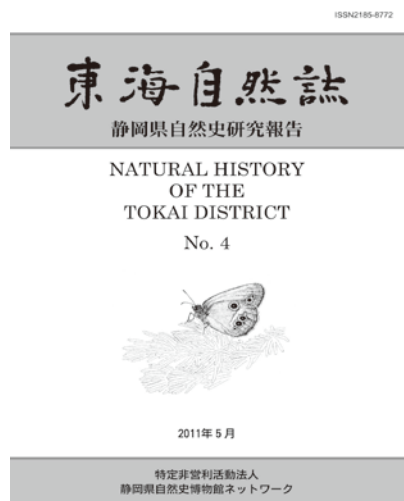


が、静岡新聞に連載したものをまとめた本です。この連載により、県立の自然史系博物館構想の理解が1歩進んだと言っても過言ではないかもしれません。

内容としては、静岡県の土台で、静岡県の成り立ち、地形、地質などを、地層（化石）が語る静岡県で、鉱物や岩石、県産出の化石を、県内でも見られる生き物たちでは、一般的な動植物を、静岡県で注目すべき動植物では、県内で特筆すべき動植物を、そして変わりゆく生物界では、外来生物による変遷や自然破壊がもたらす影響などを集めて説明しています。

この本の編集、監修には、故池谷仙之前理事長があたられ、病気療養中にも関わらず、作業していただき、この本の完成、出版後逝去されました。池谷前理事長の形見のような本です。

東海自然誌



東海自然誌は、静岡県自然保護協会が1974年から1979年にかけて、3回発行したのち休止していた学術誌を、NPOが受け継ぎ、32年間のブランクの後の2011年より第4号から第8号までを毎年発行しています。

1冊1,000円にて販売もしていますが、NPOのホームページにPDFで掲載しています。今後も継続して発行する予定です。